# 新潟港（西港区）における 万代島地区将来ビジョンの取組

新潟県 交通政策局 港湾整備課 松岡（まつおか） 隆博（たかひろ）

## 1. はじめに

新潟湊は，古くから信濃川と阿賀野川が抱える広範な流域からの舟運に加え，海運との結節点でもありました。江戸時代には日本海側最大の北前船の寄港地として栄え，その後，開港五港の一つとして，1869 年に開港しました。以降，新潟市の発展や企業の集積とともに近代港湾としての機能が強化され，2019 年には開港 150 周年を迎えたところです。

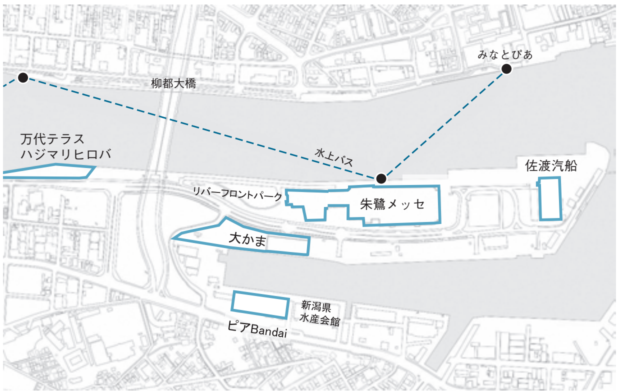
万代島地区は，新潟市の都心部である万代・古町地区に近接し，2003 年にオープンした国際コンベンションセンター「朱鷺メッセ」，佐渡島との定期航路の発着点である「佐渡汽船ターミナル」，2010 年にオープンした「市民市場（ピアBandai）」等が立地し，国内外の交流拠点となっています（図－1，写真－1）。

開港 150 周年の節目を迎えることや，万代島地区が「新潟都心の都市デザイン」（2018 年 7 月策定）の「水辺ゾーン」として位置づけられたことを受け，2019 年 3 月に万代島地区の将来を描いた「万代島地区将来ビジョン（以下，「将来ビジョン」という）」を，新潟県，新潟市，新潟西港・水辺まちづくり協議会（以下，「協議会」という）が協働で策定しました。

## 2. 将来ビジョン

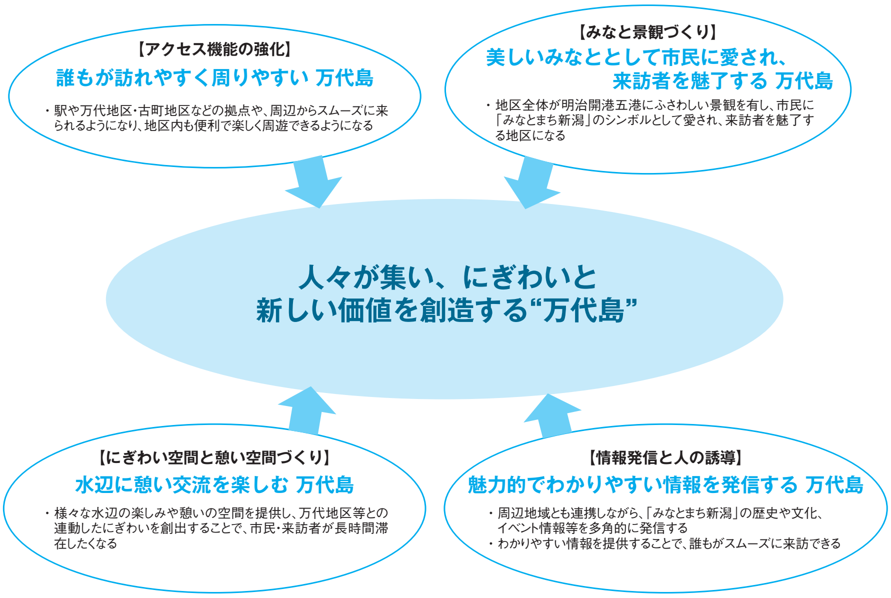
### (1) コンセプト

協議会で，万代島地区の現状を踏まえ，問題点と課題を整理し，将来ビジョンのメインコンセプ




図－1　万代島地区位置図

写真－1　現在の万代島地区




図－2　コンセプト

トを「人々が集い，にぎわいと新しい価値を創造する“万代島”」とし，「アクセス機能の強化」，「みなと景観づくり」，「にぎわい空間と憩い空間づくり」，「情報発信と人の誘導」の4つのコンセプトを掲げました（図－2）。

### ⑵　性格・位置づけ

将来ビジョンは，次のような性格・位置づけとしています。

・短期（5年），中期（15年），長期（30年）において，万代島地区において目指すべき姿を表したもの。
・今後，将来ビジョンを踏まえ，行政や民間企業等が一体となり，万代島地区のさらなるにぎわい創出につながる取組を推進していく。
・社会情勢等を踏まえ，その時代のニーズに合うよう，将来ビジョンを見直していく。
・今後の万代島地区が目指すべき姿を表したものであり，実施計画や事業を決定・拘束しない。

## 3.　各コンセプトの取組

### ⑴　アクセス機能の強化

協議会が実施したアンケート等から，「朱鷺メッセから市民市場（ピアBandai）まで歩くには意外と遠い」等の意見を受け，万代島地区内の回遊性の創出について検討し，「小型低速電動バス」の導入を目指すこととし，2019年7月に新潟開港150周年記念事業「Niiportフェスタ2019」において，低速電動バスの一日体験乗車を実施しました（写真－2）。また，翌年度には，同型のバスを用いて8～10月まで運行し（58日間），延べ2,163人の利用がありました。利用者へのアンケート結果等から，好意的な評価として，眺望を楽しめる信濃川沿いのルートや目新しいバス自体への関心などが挙げられました。一方，今後必要な改善点として，万代地区や新潟駅方面との連携，乗車定員の増員などに対する意見が寄せられました。

写真－2　岸壁エプロン部を走る低速電動バス
後方は朱鷺メッセ

こうして得られたノウハウを元に，信濃川左岸（入船地区，古町地区），右岸（万代地区，沼垂地区）の周辺拠点との周遊性及び利便性向上を目的とし，2022年3月からおおむね1年間，既存のバス路線「みなと循環線」を万代島地区まで延伸する実証事業を始めています。

### (2) みなと景観づくり

万代島地区の中核施設である「朱鷺メッセ」は，施設全体のシルエットが信濃川に浮かぶ船のイメージを持たせたデザインとなっていますが，「周辺との景観に統一感がない」等の意見を受け，景観の統一性や周辺地区との連続性の創出等を将来ビジョンの課題に位置づけました。

これを受け，新潟市や朱鷺メッセの管理会社は，萬代橋から朱鷺メッセの間にイルミネーションを設置し，みなとらしい景観演出に取り組んでいます。

### (3) にぎわい空間と憩い空間づくり

国際コンベンションセンター「朱鷺メッセ」は，約1万人収容の展示場を有する施設ですが，「商業施設や楽しめる場所が無く来訪者の滞留時間が短い」，「催事がない日は閑散としている」等の意見を受け，若者が楽しめるアミューズメント空間やカップルや家族連れなどがゆったりと過ごせる憩い空間の形成等を将来ビジョンの取組に位置づけました。

新潟市は朱鷺メッセから道を挟んで立地する旧水産物荷さばき施設（通称「大かま」）を，2018年にイベントスペースとしてリノベーションしました。前述の「Niiport フェスタ 2019」のほか，「水と土の芸術祭」のメイン会場，東京オリンピックでの日本人選手の活躍で人気急上昇のスケートボードの練習場など，様々な用途に使われています。

佐渡汽船ターミナルの3階にある「新潟県港湾資料室」は，築40年が経過し，展示物の劣化等が見られることから，リニューアルを将来ビジョンの取組に位置づけ，2019年度に着手し，2022年3月にリニューアルオープンしました（**写真−3**）。新たな資料室は「シアターゾーン」，「模型展示ゾーン」，「ギャラリーゾーン」で構成し，新潟港をはじめとした県内の港湾や船舶等について学ぶことができる展示空間としました。また，「シアターゾーン」には，体験型映像コンテンツを導入し，体を使って楽しみながら学ぶことができる施設としました。

**写真−3　リニューアルした新潟県港湾資料室**

万代島地区の上流部に位置する「万代テラス」において，飲食物や物品の販売，イベントの開催や一時的なワーキングスペースの提供等，にぎわい創出を担う事業者を2021年6月に公募決定しました。地域コミュニティの「ハジマリ」の広場として，人と人，人と地域のつながりによる「にぎわい」が集まり，「遊び」，「体験」，「憩い」が生み出される場所として，同年10月のプレオープンを経て，2022年4月に「万代テラス　ハジマリヒロバ」がグランドオープンしました。

また，将来ビジョン中期の取組である「水辺が望めるレストラン等の通年施設の店舗誘致」の実現に向け，2019年度にサウンディング型市場調査を行いました。4団体から提案を受けたものの，その後，新型コロナウイルス感染症の影響から停滞しましたが，今後，諸条件を整理し，実現に向けた取組を進める予定です。

### (4) 情報発信と人の誘導

「万代島の認知度が低い」，「新潟駅から万代島地区へ行く道が分かりにくい」等の意見を受け，

情報発信力強化，誘導サインの強化等を将来ビジョンの取組に位置づけました。

2019年8月，将来ビジョンを県民に広く浸透させ，さらなる意識醸成を図ることを目的として，「ミライを語ろう!! 万代島」と題したシンポジウムを開催しました（**写真－4**）。名古屋港港まちづくり協議会事務局次長の古橋敬一氏の基調講演，新潟大学教育学部付属新潟中学校の生徒を交えたパネルディスカッションを行い，万代島の未来について熱く語り合いました。

新潟市は，2020年度から新潟駅～万代～古町の都心軸に万代島を加えた「にいがた2km」のエリアの案内標識の改善に取り組んでおり，今後，エリアマネジメントと連携し，各種情報の受発信の一元管理を図っていく予定です。

写真－4　シンポジウムの様子

## 4.　おわりに

万代島地区将来ビジョンを策定してから3年が経過しました。この間，新潟駅の再開発とともに，周辺のビルやホテル等の建設も進められ，万代島地区においても，県都中心部に位置する水際線として，様々な事業者が参入しつつあり，同地区のにぎわいの輪が着実に広がってきています。

また，本年2月，「佐渡島（さど）の金山」が，世界文化遺産登録の推薦候補に選定されました。万代島地区は佐渡航路の玄関口であり，世界文化遺産登録による人流の活性化も期待しているところです。引き続き「人々が集い，にぎわいと新しい価値を創造する“万代島”」を目指し，官民一体となり取組を進めていきたいと考えています。